

8月は、日本と同じで、台湾も祭りが多い。代表的なものは、旧暦7月15日の中元祭、漢民族伝統の祭りである。港町・基隆のそれが有名で、当夜、きつと米国の偵察衛星を驚かせるに違いないほど巨大な精霊が浜辺で流される。

もう一つ代表的な祭りは、台湾東部に点々とする先住民アミの集落で展開される豊年祭である。彼ら自身の言葉で言えば、「ミリシン」、日本時代は月

辺の集落が同じ日に開催することは慎重に避けているので、8月に台湾にすれば、毎日どこかで豊年祭がおこなわれている格好で、近頃は、カメラを持った日本の若いグループの参観も多くなった。

アミは、人口12万人と台湾の11先住民のなかではもっとも大きい勢力をもち、もとは漁撈を生業としていた南洋の民族である。民族性も明るくて開

に凱旋したので驚いた。いまは、政府から補助が出るようになったので、無理して海に出ることはないよと、あつからんとしている。実に愉快な人たちだ。

3日間に短縮されたおかげか、とにかく飲んで食い、踊っては飲み、という繰り返しである。しかし、いまは小学校でも練習するようになったという群舞は、なかなか見ごたえがある。そし

プニースとなつて真夏の熱い戦いが展開されたが、これには、翌春の総統選の前哨戦と見られた背景がある。現職の陳水扁総統率いる民進党と、政権奪回を目指す国民党・親民党連合が真正面から激突した。中央政界の大物を総動員して戦われた選挙戦は、野党連合の圧勝に終わった。先住民の比重の高い「イナカ」の選挙であったが、SARSでますます落ち込んだ陳政権の不人気振りを如実に物語るものとなった。

アミの華やかな祭り、そして知事選も終わり、台湾は秋を迎えている。だが、政局は半年後に迫った総統選へとまっしぐら。こもつた熱気は冷めそうにもない。



見祭」とも呼ばれていた。

1年2回のテンポで収穫するアワの耕作の中休みに当たる、8月頃に、よき日を選んで伝統的に催されてきた祭りで、彼らにとっては正月に等しい。昔は1カ月近くも、一連の行事が続いたというが、最近はず、都会に出ている若者たちが帰りやすいようにと、期間も3日程度に短縮され、集落ごとに関催日を固定しているところが多い。しかも周

## 第十三回

# 「花蓮の暑い夏」去りて

柳本通彦

放的だ。しかも母系制なので、すこぶる温和な人たちである。

海洋民族であったなごりは祭りのなかに残っている。祭りの一つに「漁」がある。海から遠いところでは、若者が溪流に出かけて網で魚を捕るが、なかにはトラックに乗り込んで遠路、浜辺に出向くところもある。一度それに同行したことがあったが、結局、漁船で買

て、家々の庭では、宴卓が広げられ、おい、くつていけよ」と道行く人に優しい声がかかる。

台湾本島の東部、花蓮県と台東県にある大小数十の集落(かつては生活共同体だった)で、こうした祭りが繰り広げられている、その真つ只中で、今年も一つの「祭り」が展開されていた。花蓮県知事選である。

地方の選挙にもかわらず、連日トツ



祭りの日に正装をまとったアミの婦人たち(花蓮県寿村)